

ともに生きることを支えるまちづくりについて。

持続可能な未来、誰一人取り残さない社会をつくるには、ともに生きることにより、それは可能になります。自助、自己責任が言われていますが、そもそも憲法は、国が国民の幸せな暮らしを保障することを求めています。そのために公が一人一人を支える仕組みをつくり、維持していくことが肝要であると考えます。このような観点から、今回3つの項目について質問します。

(1)、ヤングケアラーへの支援について。

ヤングケアラーとは、家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている18歳未満の子どものことを指します。ちなみに18歳以上は若者ケアラーとすると、日本ケアラー連盟では区別して使っています。日本では比較的新しい概念ですが、イギリスでは1990年代から調査が始まり、現在ではさまざまな支援策が実施されています。

ア、ヤングケアラーの現状把握について。

2015年に南魚沼市で、2016年には藤沢市で、教育委員会の協力を得て、研究者らの調査が実施されました。2018年度には大分市が、教育委員会のほかに地域包括支援センターでも調査を行い、ヤングケアラーの実態把握に努めています。三鷹市において、ヤングケアラーの子どもたちの実態はどのように把握されているのでしょうか。

質問1と2、三鷹市及び三鷹市教育委員会において、過去の何らかの調査において、ヤングケアラーを認識し、抽出できるような調査はあるのでしょうか、それぞれ答弁をお願いいたします。

質問3、教育の現場で遅刻、忘れ物等の課題がある子どもの家庭に疾病や障がいを抱えた親や兄弟などの家族がいるかという背景調査を行っているのでしょうか。

質問4、教育の場において、友人関係に課題があると思われる子どもに、障がい等のある家族がいるかというような背景調査は行っているのでしょうか。

質問5、子育て支援やその他の現場において、何らかの課題があると認識された子どもの家庭に、疾病や障がいを抱えた親や兄弟などの家族がいるかという背景調査を行っているのでしょうか。

質問6と7、市政及び教育にかかわるさまざまな現場において、外国語を母語とする親を持つ子どもが、通訳として親に付き添うことを求められるなど、ケアラーとして認識されたケース

はあるでしょうか、それぞれ答弁をお願いいたします。

質問8と9、ヤングケアラーの実態調査を実施することについて、市長及び教育長の見解をそれぞれお伺いいたします。

イ、ヤングケアラーへの支援策について。

子どもたちが家族のケアをすることを評価しつつも、過度な負担となっている場合に、安心して学校生活や日常生活を送り、さらには将来の自分の人生を生きることができるような支援体制が必要です。

質問10と11、ヤングケアラーの負担を減らすために、現在ある介護者支援、障がい者支援、家事支援、通訳支援、福祉や教育との連携などで、利用可能な施策や事業はどのようなものがあると言えるのか、市長及び教育長にそれぞれお伺いいたします。

質問12と13、ヤングケアラーが安全に話すことができる場、経験を共有し合い、情報を得られるような場が必要です。場の確保について、市長及び教育長にそれぞれの見解をお伺いいたします。

質問14と15、ヤングケアラーについての社会の意識を高めるために、必要な事業実施について、市長及び教育長にそれぞれの見解をお伺いいたします。

質問16と17、ヤングケアラーの今後の支援策の充実が必要です。市長及び教育長にそれぞれの見解をお伺いいたします。

(2)、三鷹駅前地区のまちづくりについて。

三鷹市は、三鷹駅周辺のまちづくりについて、「広報みたか」10月20日号にて子どもの森(仮称)イメージコンセプト案を公表しました。

ア、三鷹駅前地区再開発基本計画2022との整合性について。

三鷹駅周辺の再開発について、市はかねてより作成していた三鷹駅前地区再開発基本計画を2016年7月に改定しています。

質問18、三鷹駅前地区再開発基本計画では、対象区域外とされている箇所は、イメージコンセプト案を見る限り、再開発事業に取り込まれているように思います。この区域を対象区域として含めるのでしょうか。

質問19、中央通りは、三鷹駅南口の中心市街地を形成する商店街ですが、イメージコンセプトでは、車通りとして描かれています。中央通り買物空間整備事業との連携は見直すので

しょうか。

イ、超高層ビル建設について。

2016年に建設通信新聞で報道された経過の概要によれば、高さ100メートル、800戸の住戸が予定されているそうです。今回のイメージコンセプト案でも、住戸棟はてっぺんが見えない超高層ビルが想定されています。

質問20、高さ100メートルの超高層ビルが当該地に建設された場合、さくら通り北側の住宅地は日陰となる可能性が高いと思いますが、市はこれを規制できるのでしょうか。

質問21、800戸の住戸が建設された場合、保育園、小・中学校等のインフラ整備、周辺の道路の渋滞、三鷹駅の混雑等についての対応検討が必要だと考えます。市は検討しているのでしょうか。

質問22、再開発対象の三鷹センタービルの賃貸住宅に居住している人々が、住み続けられる居住権確保は可能となるのでしょうか。

ウ、三鷹らしいまちづくりについて。

三鷹らしさとは何か。三鷹駅周辺は、昭和の時代から住宅街のまちでした。文学者や芸術家などがそこここに暮らす文教都市、都心へのアクセスのよさから、サラリーマンが暮らすまち、井の頭公園を過ぎると気温が下がるとも言われ、緑と水の豊かさ、自然環境を住宅の庭木とともに実感して暮らせるまちでした。今も変わらずにあるもの、次世代に引き継ぐべきものだと思います。三鷹はこのような落ちついて暮らせるまち、質の高い居住空間を目指すべきだと考えます。

質問23、本年6月の三鷹市図書館協議会第19期提言において、新駅前図書館を生活拠点である三鷹地区の中核的施設とすることを提案しています。これを踏まえた検討をしているのでしょうか。

今回公表されたイメージコンセプトは、いきなり発表されたものです。ここに至る過程がほとんどなく、選挙の公約ということのみで提示されたように思います。

質問24、再開発地区を含めたエリア全体のイメージが必要です。過去のさまざまな失敗例を学び、中低層で質の高いまちづくりを目指すべきだと考えます。図書館を含めた再開発のあり方について、市長の見解をお伺いいたします。

(3)、東京外郭環状道路工事について。

ア、大泉ジャンクション工事における漏気について。

練馬区の大泉ジャンクションでは、本線シールドマシンの掘削が開始され、現在は工事ヤード内での初期掘進、シールドマシンに後続の機械設備を装着しながらゆっくりと進んでいます。

質問 25、8月の白子川漏気に続き、10月には既存ボーリング孔でも漏気が発生していました。この発生と原因について、事業者からどのような説明があったのでしょうか。

質問 26、白子川漏気について、東京外環トンネル施工等検討委員会において検討がなされたのか、検討内容についてどのような説明があったのでしょうか。

東名ジャンクション工事現場脇の野川で漏れ出た空気は、酸素濃度が低い酸欠ガスでした。大深度から空気が上がってくる間に酸素を奪われるからだと言明されました。今回の大泉でも、一定量の噴出があった気体の測定値は、酸素濃度が低い状態でした。

質問 27、深度が浅い大泉ジャンクション工事における酸素欠乏状態となるメカニズムについて、どのような説明があったのでしょうか。

質問 28、水がある場所だからこそ、漏気が目に見える状態で発見されるのです。水のない場所において酸素欠乏空気の発生を感知できるのか、発生予防できるのかについて、事業者からどのような説明があったか、お伺いします。

質問 29、市において、市民の生活権及び安全安心の暮らしを守るために、外環整備に伴う安全・安心のまちづくり連絡協議会開催以外にどのようなことを実施し、またはする予定があるのか、市長の見解をお伺いします。

イ、本線シールドマシンについて。

11月8月、9日に本線トンネル大泉南工事にかかわる本線トンネル掘進工事の説明会が開催されました。本線トンネル7キロメートル区間の説明としながら、実際の説明会案内は大泉工事ヤード周辺のための配布だったと聞きます。

質問 30、本線掘進工事の説明会は、本線トンネル上の住民にはなされるのか否かについて、事業者を確認しているのでしょうか。

質問 31、東名北工事においても、東名ジャンクション工事現場周辺への案内のみの説明会が1回開催されたのみです。まもなく気泡工法を使用するとされる地点に達しようとしていますが、説明会開催の予定の有無や時期について、事業者からどのように聞いているのでしょうか。

以上で壇上での質問を終わります。自席での再質問を留保いたします。よろしくお願いたします。